

令和元年度 学校評価

本年度の 重点目標	<p>1 生徒一人一人の実態を把握し、実態に即した分かりやすい授業のための指導方法の工夫と改善</p> <p>2 生徒の自己認識を深めるとともに、より主体的に取り組むための支援の充実</p> <p>3 教科会の充実とともに、現職研修、職業種目研修、授業研修の積極的な実施</p> <p>4 行事の精選、会議の効率化、部活動の運営等による教職員の多忙化解消の促進</p>				
項目(担当)	重点目標	番号	具体的方策		評価結果と課題
総務部	<p>・学校便りやPTA便りを読むことを通して、生徒の自ら考える力を育成する。</p> <p>・生徒が、5Sや安全に対する意識を高め、よりよい教室環境で学校生活を送れるようにする。</p>	<p>2</p> <p>2</p>	<p>・学校便りやPTA便りを教室に掲示する。</p> <p>・生徒が、学校便りやPTA便りを読んだ感想を書く機会を設定する。</p> <p>・職員による月例点検、行事の前後や災害（台風、地震等）後の臨時点検日に、生徒にも安全や整理・整頓・清潔・清掃への意識を高める問いかけを行う。</p> <p>・ロッカー、机、更衣室、掲示物等の点検ができる生徒用チェックシートを準備し、生徒が、教室環境について考える機会を設定する。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・学校便りやPTA便りにルビを振り、教室に掲示して読み返せるようにした。生徒の感想を掲示することにより、生徒が学校行事や他学年の取組を再確認しながら自分の思いを伝え合うことができた。</p> <p>・国民安全の日（7月1日）より、美化委員会と連携し、生徒による「整理・整頓・安全点検チェック」を実施した。毎月、生徒が各学級で呼びかけることで、生徒や教職員の安全・5Sへの意識は高まった。</p> <p>・生徒からの提案で、美化委員による整理・整頓の抜き打ち検査を実施し、その結果を全校集会で伝えた。自分の机の中やロッカーの整理・整頓ができる生徒が増えてきた。</p>
教務部	<p>・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、校内研究を通して授業改善を行う（職業種目）。</p> <p>・生徒の自己認識を深める活動を進めるとともに内容の見直しを図る。</p>	<p>1</p> <p>3</p> <p>2</p>	<p>・新学習指導要領（高等部）の趣旨を伝達し、職員理解を深める。</p> <p>・モデル指導案等の案を検討し、来年度に向けて準備をする。</p> <p>・組織的に継続して取り組める体制を維持していき、計画どおりに活動を進める。</p> <p>・自己理解を更に深めていけるように内容の見直しを行う。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・新学習指導要領（高等部）の変更点や注意する点など、<u>教科主任会を通して、伝達することができた。</u>また、<u>教科会Iでは、年間指導計画を新学習指導要領の各教科の内容に沿ったものにするため検討を依頼した。</u>今後も情報を発信していく。</p> <p>・来年度の校内研究に向けたモデル指導案の案を検討し、進めることができた。</p> <p>・自己理解を深める取組は、例年どおり進めることができた。来年度からは<u>自立活動の中で、自分ノートとして進めていく。</u></p>

<p>教育支援部</p>	<p>・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、校内研究を通して授業改善を行う（職業種目）。</p> <p>・ICT環境の整備を図るとともに、ICT機器を使用した効果的な指導ができるようにする。</p>	<p>1 3</p> <p>1 3</p>	<p>・校内研究における実施事項について検討を行う。</p> <p>・研究授業のプレ実施、まとめを行い、来年度の実施のための材料とする。</p> <p>・職員のタブレット端末も含め、ICT環境を整備する。</p> <p>・職員のニーズに応じたタブレット端末研修を実施する。</p> <p>・効果的な取組や目立った取組を、通信を発行し伝える。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・2年生の職業種目の授業で、問題解決型学習を通して、生徒の思考力・判断力・表現力を育てる取組を行うことができた。実践を通して、<u>職員、生徒とともに学習過程を意識して取り組むことの必要性や重要性を理解でき、また生徒の思考力・判断力・表現力を育てることに繋げることができた。</u></p> <p>・教員用のパソコン、タブレット型パソコン導入にあたり、情報担当者間で情報共有を図りながら、<u>ICT環境を概ね計画どおり整えることができた。また、職員のニーズに応じたタブレット端末研修を行うことができた。また、効果的な取組や目立った取組を、タブレット通信を発行し、伝えることができた。</u></p>
<p>生徒指導部</p>	<p>・道徳教育を中心に規範意識やいじめをしないという意識を高める。</p> <p>・生徒が安全に、かつ、より効率的に部活動が行える環境を整える。</p>	<p>1 2</p> <p>1 2</p>	<p>・効果的な授業実践のために、教科書の内容を検討し、授業担当者に情報交換できる機会を設定する。</p> <p>・アンケート（生徒会通信）を作成し、結果を掲示する。</p> <p>・SNS等の適した使用法を伝える。</p> <p>・「部活動に係わる活動方針」を周知徹底させ、事故防止、適切な対応を図る。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・年間指導計画の見直しや教科書の内容を検討することによって、<u>授業間の差がなく、行うことができた。</u></p> <p>・生徒会通信から、<u>生徒の困り感を把握し対応することができた。</u></p> <p>・SNSは適切な使用ができず問題が発生した。分かりやすい授業を行い、<u>自分で防止できるようにしたい。</u></p> <p>・活動方針を徹底することにより、<u>重大な問題、事故となることはなかった。暑さの対応も冷房環境が整ったことにより、体調を崩す生徒が少なかった。</u></p>
<p>保健体育部</p>	<p>・健康・安全に関する知識・技能を習得し、自主的に実践できる力を高める。</p> <p>・生徒の心の健康について理解し、心の健康にづくり</p>	<p>2</p> <p>2</p>	<p>・簡単な手当の仕方や、けが防止のための取組を生徒、教職員に伝達する。</p> <p>・生徒保健委員会が健康・安全に関する啓発活動を、自主的に行えるような機会を設定する。</p> <p>・心の健康づくり推進のための、研修や情報を積極的に発信していく。</p> <p>・健康観察を行う時間や方</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・<u>養護教諭より、熱中症予防の対策について講話を行ったり、生徒が保健室に来室した際にけがの手当ての仕方等について話をしたりすることができた。今後はけがの防止についての取り組みを考えていきたい。</u></p> <p>・生徒保健委員会より、<u>夏季休業前に熱中症の予防の予防対策、冬季休業前にインフルエンザの予防対策についてのたよりを作成した。特に熱中症の予防・対策について生徒自らの生徒に声をかけている様子が見られ、意識が高まった。</u></p> <p>・研修会等での資料を、<u>全職員へ回覧したり、朝礼等で情報を発信したりすることができた。</u></p> <p>・長期休業前や後の健康観察を丁寧</p>

	おける相談体制の充実を図る。		法について検討し、全職員に周知する。		に行うように周知することができた。体調不良の生徒が増えたとき等の健康観察の方法について今後検討していきたい。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の実態を把握し、生徒の実態に即した進路指導を進め、3年生全員の進路先を確定する。 ・1, 2年生の進路に関わる行事への取組を充実させ、自主性を伸ばす。 	1 2 1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・3年職員と連携し、学年会での報告や情報交換から生徒の実態を把握し、生徒を育てる観点を共有する。 ・職員に進路の流れを提示し、配慮事項や押さえるポイントを定期的に発信して確実に進路活動を進める。 ・校務部会、学年会で進路に関わる行事を見直し、自主性を高める取組を行う。 ・進路指導主事が、実習等の事前、事後で生徒に話をし、自主的に進路活動に取り組めるように促す。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生全員の進路先を確定できた。 ・実習後の課題を一覧にまとめ、入社試験までに生徒を育てるポイントを職員間で周知することができた。 ・年間通じて、ポイントを押さえた指導を共有でき、内定後についても、職員間で目指す生徒像を確認しながら、日々の指導に当たることができた。 ・各学年で外部講師による職業講話を行い、職業観、就労意欲を高めるきっかけを作ることができた。 ・各学年の実習前後に主事が実習の意義や取組姿勢、3年生の状況を踏まえた話ができ、早い段階で進路を意識した取組ができた。
寮務部	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎指導員と担任等が寄宿舎生の情報交換をスムーズにできるようにする。 	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からの問い合わせにどの寄宿舎指導員でも答えることができるようにする。 ・舎生情報を共有できるような環境を整える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・舎生情報交換会を充実させたことで担任や学年には瞬時に情報を流したり、回覧等で管理職に相談したりする体制を築くことができた。 ・指導員間でも情報共有する意識がより高まり対応することができた。
運営委員会 部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・ライフ・バランスを推進する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・在校時間が縮減するよう、教員一人一人が自分の働き方について考えメリハリのある働き方を実践する。 ・年間に5日以上年次休暇が取得できるようにする。 ・教員が退校時刻を遵守できるよう、業務の平準化や効率化を推進する。 ・在校時間が長時間化している教員に対してその事情を把握し、改善の手だてを考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、予定施設時間を延長する回数が、昨年度より少なくなった。また、全員（再任用ハーフ職員を除く）が5日以上年休を取得することができた。 ・本年度も総務部職員が会議設定日を配慮し、会議日のない日を多く設定することができ、職員が自身の仕事を効率的に進めることができたようにした。 ・在校時間が多い職員に、個別に声をかけ、長時間化している原因を把握し、必要に応じて助言した。
学校関係者 評価を実施する主な 評価項目	各校務分掌の重点目標を評価項目とし、各重点目標の達成度を下記評価基準に則して評価する。（各校務分掌の重点目標は、上記「本年度の重点目標」に関連した内容を設定し、番号で示した。）				

※評価基準

A：計画どおりに進んでいる。

B：ほぼ計画どおりに進んでいる。

C：あまり計画どおりに進んでいない。

D：計画どおりに進んでいない。